環境パートナーシップちば だより
―つながれ　ひろがれ―
Vol.８８

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　桑波田　和子
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

環境学習指導者養成講座
導入コース終了、発展コース進行中

今年度の環境学習指導者養成講座（導入コース）は９月８日に開講し、10月27日に無事に５回の講座を終了しました。

受講者数は 27 名で、定員（40 名）までは届きませんでしたが昨年度より増やすことができました。男女別では男性が多く、最多年代が 40 才台であったのは予想外の喜ばしいことでした。

最終日に受講生に行ったアンケートは次のような結果でした。

全体の評価：満足:14 名、やや満足:3 名
やや不満:1 名、不満:0 名
講座の内容：十分:9 名、ほぼ良い:8 名
やや:不足 1 名、不十分０名

実施した科目の中で「良かったもの」をお聞きしたところ、ダントツに多かったのがバスツアーの 12 票、次に多かったのが団体の活動紹介（6票）でした（複数回答）。この 2 つは、昨年度のカリキュラムをグレードアップするために今年度から実施したもので、企画者としてはうれしい限りでした。

バスツアーではバイオマスをテーマとし、香取市の和郷園と山武市のバイオマス活用を見学しました。和郷園では、バイオマスプラントで農作物残さと家畜糞尿からメタンガス、液肥、堆肥、バイオ燃料などを製造し、それらをグループの農場内で使用して完全に循環させています。顧問の阿部邦夫さんが案内と説明をしてくださり、受講生たちは、和郷園で行われていることを学ぶとともに、バイオマスプラントに全てをかけて取り組んでいらっしゃる阿部さんの姿に大きな感銘を受けた様子でした。このことがアンケートの「12 票」に表れたのでしょう。

もう一つ好評だったのが、講座最終日に行った「団体の活動紹介」でした。環パの団体会員を中心にして、いろいろな活動分野・内容をもつ 10 団体を選び、それぞれの団体の方に講座会場に来ていただいたのです。午前中はパワーポイントや配布資料により活動内容の紹介をしていただき、午後には受講生が団体の方たちに直接質問し、意見交換できるような場を設けました。受講生たちは、この交流の中で自分の活動の方向性を固め、最後に決意を発表して導入コースを終了しました。

各団体の活動紹介については、次ページの表にまとめてありますので、ご覧下さい。

２日目「里山」「私たちのイメージする里山」をグループで考え発表します

４日目「バスツアー」和郷園で阿部さんの熱いお話に聞き入る受講生

このように、今年度の環境学習指導者養成講座の導入コースは終了し、現在は発展コースを開催中です（11 月４日～12 月９日）。発展コースには導入コースの受講者が 16 名も引き続き受講して下さっており、こちらも好評です。

この「だより」が皆さまのお手元に届くころには発展コースも終了しますが、1 月からは、さらに上級コースである「環境学習指導技能向上講座」が開講します。今度は環境学習指導者がさらに磨きをかけるための講座です。お申し込みをお待ちしております。（詳しいことは 8 ページの「お知らせ」をご覧ください。）

（環境学習担当　小倉久子）

平成24年度環境学習指導者養成講座導入コース最終日に受講生に向けてご紹介いただいた、10団体の千葉県内での活動内容をご報告します。　環境学習担当　横山清美

団体名・発表講師	活　動　内　容
グループ2000（環境に学ぶ） 横田耕明さん（代表）	現在「ビオトープ」の維持管理、「ビオトープ」を活用した自然観察と自然遊び（環境教育）、「ビオトープ」を活用した地域交流活動、近隣地域のビオトープのネットワークづくりの活動に加え、里山保全を目的とした自然との融和に、人が積極的に関われるプログラムを模索、実践している。
一般財団法人千葉県環境財団 寺井賢一郎さん（顧問）	昭和 49 年に「財団法人千葉県公害防止協会」として設立。地球温暖化防止活動推進員の活動支援、エコアクション 21 による企業の環境経営支援、ちば環境再生基金による助成事業などの公益事業のほか大気、水質、地質などの環境調査、各種放射能分析、「手賀沼親水広場」及び「いすみ環境と文化のさと」の管理運営を行っている。
酒々井里山フォーラム 萩原耕作さん（代表）	平成１３年９月設立、活動内容は、①山林整備、休耕田こめ作り、炭焼き、ビオトープ整備、生物調査　②講演会・研修会、自然観察会、子供体験教室　③各種イベント参加、活動拠点は、酒々井町西井戸地区、酒々井町馬橋地区
特定非営利活動法人ビオスの会 津本純子さん（事務局長）	①家庭での生ごみ処理の普及と支援活動　主にＢＨ－５方式とＥＭ方式について　②生ごみ処理物の回収と堆肥化　③堆肥多用無農薬栽培の野菜の生産と頒布　④小学校等における環境教育「生ごみはどこへ」
特定非営利活動法人せっけんの街 山部佳子さん（前理事長）	①廃食油回収・再利用の事業　②廃食油リサイクル製品の普及・啓蒙　③環境浄化の推進　④環境学習・せっけん作り等のワークショップの企画・運営、環境保全型商品の開発・普及・啓蒙。他に今年度、液体せっけん「こはく」の製造販売をはじめました。
浦安水辺の会 横山清美（事務局長）	①水辺ガイドの開催　②水辺の市民利用とルールを考える　③水辺に親しむ活動　④人材養成の企画運営　⑤町の歴史・文化を伝える活動（郷土博物館との協働）⑥子どもの水辺体験活動（はぜつり教室等）⑦水辺マップ作成のための調査･研究（セルフマップ）⑧川や海の環境や美観の保全にかかわる活動（海岸･川の清掃）
アースドクターふなばし 舛田守良さん	①地球温暖化防止活動の実践　②地球温暖化防止に関する「出前講座の開催および講師派遣」③県、市、各種団体等が行う「（フェア、イベント）事業」への参加、協力　④「船橋市地球温暖化対策地域協議会」での中核的活動　⑤船橋市の行政等に対する提案・提言　⑥地球温暖化防止についての自己研鑽・調査　等
NPO 法人　千葉自然学校 上地智子さん （ネットワーク課長）	千葉の里やま里うみをフィールドに、自然体験を通して地域活性化を目指すネットワーク型自然学校として、指導者の養成、自然体験の提供とプログラム開発のほか、団体の支援を行なっています。南房総市大房岬少年自然の家、大房岬自然公園、千葉県立君津亀山少年自然の家、㈱千葉薬品よりヤックス自然学校を受託運営しています。
ＧＯＮＥＴ（ゴネット） 吉田謙二さん	「できる人が・できる事を・できる時に」をテーマに、主に千葉県の各地域ＧＯＮＥＴ（９地域）がごみゼロ活動から繋がり合える仲間づくりをしています。紙パック風船ボール講座・ピールアート講座・風呂敷包み方講座・ソーラークッカー工作講座等により、子どもから大人まで身近な物を使ったごみゼロを目指しています。
環境パートナーシップちば 小倉久子さん	会報「だより」発行、ホームページ、「環境情報広場」、メルマガ「環パ通信」エコメッセ in ちばの事務局機能、環境学習指導者養成講座、公民館等での環境学習実施、エコサロン開催、印旛沼をきれいにする活動、ネットワーク活動（市民･行政･企業）

イベント報告

第１０回印旛沼流域環境・体験フェア ～来て、見て、発見、印旛沼!!～

開催日時：2012 年 10 月 20 日（土）11 時～15 時　　10 月 21 日（日）９時～14 時
主催：印旛沼流域水循環健全化会議　　場所：佐倉ふるさと広場周辺
プログラム：
◇２０日　流域１３市町と団体・ＮＰＯによるブース展/　流域市町のキャラクター撮影会/　農産物販売/　屋形船乗船体験/　Ｅボート乗船体験/　第２回Ｅボートちば大会/等
◇２１日　秋佐倉マルシェ“コスモス広場”

このイベントは、印旛沼流域水循環健全化計画（2030 年目標）の一環として行われ、流域に関わる人々が、力を合わせて印旛沼をより健全にするために、まさに印旛沼流域の環境を「**来て、見て、発見**」しようとするものです。

今回は、すばらしい秋晴れの好天に恵まれ、大勢のこどもから年輩のかたが幅広く参加し、まったりとした楽しい時間を過ごしていました。

私は昨年が初めての参加のため過去 10 回分のイベントの状況を知りませんが、毎年、少しずつ質の向上が見られるのではないかと思います。その理由は、裏方の並々ならぬ努力もさることながら、印旛沼の自然資源としてのポテンシャルの高さが、人を引きつけ、その更なる改善の努力を促すためではないかと思います。

今年は 21 日の“秋佐倉マルシェ”（農産物等の即売会、コスモス摘み、など）も加えて、初めての２日間開催でしたが、両日で 3,000 名以上の来場者があったそうです。

環パはブース展に出展し、印旛沼流域における活動紹介のパネル展示と、環境学習チームが企画した「天然素材のシャボン玉」の実演を行いました。昔は洗剤として使われていたサイカチやムクロジの実は、年配の方の関心も高く、化学製品に頼っている今の暮らしを振り返るきっかけにしていただけたかな、と思いました。良い企画と当日の説明をしてくださった環境学習チームのみなさま、お疲れ様でした！

（文責　牧内・小倉）

ステージショーを楽しむ

Ｅボート大会

１０月２０日印旛沼において、環パちばのメンバーが第２回Ｅボート千葉大会に参加しました。Ｅボート千葉大会は、市民に印旛沼を知ってもらい、交流する中で水質を良くする活動につなげていくきっかけになることをめざして、昨年第１回が印旛沼流域環境・体験フェアの中で始まりました。ゴムボートは前と後ろに１名真ん中に片側４名ずつ８名の計１０名のチームですが、５名は初めての体験で、真直ぐ進むかどうかも疑わしいチームで、出場前に漕ぎ方の基礎を主催者側より教えていただき、１回だけ試験体験を試みましたが、左右のメンバーはタイミングを合わせるのが難しく、やはり真直ぐなかなか進みませんでした。特にターンする所では大きくはみ出してしまいどうなることやらと心配したのですが、ゴール前近くに来ると、気持ちの若い皆様が、ピッタリにタイミングが合うようになり試合に期待が持てるようになりました。

３艇ずつの競争でタイム勝負です。試合のスタートで緊張しましたが、スタートより左右の漕ぐタイミングが合い、真直ぐ進み、問題のターンに差しかかったとき、奇跡のように折り返しのブイをクルリとあっという間に回りました。二番艇に２０メートル遅れていましたが、ほぼ並んで腕力の勝負となりました。結局、若い気持ちよりも若い体力に負け残念でしたが、なんと結果は参加チーム２２チーム中１１位でした。団結の素晴らしさを改めて感じた大会でした。

（文責 斎藤）

スタート風景

一生懸命櫂を漕ぐ各チーム

花見川のナガエツルノゲイトウを調査しました

４月に調査した、花見川のナガエツルノゲイトウについて、１０月５日に再び調査しましたので、ご報告します。

晴天に恵まれた１０月５日（金）の午前中に、８名で調査しました。９月のエコメッセ 2012inちばの環境協働創造市に出した「花見川のナガエツルノゲイトウを何とかしたい」との提案に関心を持った、カミツキガメ等特定外来種の調査をしている方が参加されました。

調査は、４月と同じ花島橋から弁天橋までの約３Km の区間を、川沿いのサイクリングロードや橋の上から、歩きながらの目測で行いました。

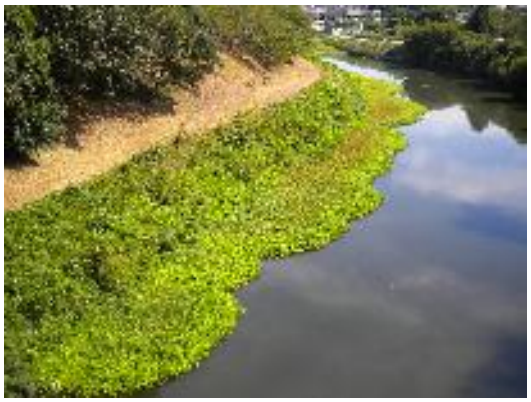
１０月とはいえ未だ草木が青々としています。４月の調査ではナガエツルノゲイトウは枯れているような茶色の浮島でした。今回は、同じ地点に黄緑色で河岸に大きく広がっています。特に弁天橋上流の右岸では、目視で約 200mの黄緑色のベルトができています。景観上からも気になる場所です。

今回の調査から、４月との違いは、草が茂り見つけにくい欠点、黄緑色で識別しやすい利点がありました。今後、川の中から船などで正確な調査が必要です。

また、１０月６日に長作公民館主催の「ウォーキングとエコと自然観察」に参加し、天戸橋から潮止め橋まで歩きました。潮止め橋から下流にはナガエツルノゲイトウは見えませんでした（後日、ナガエツルノゲイトウは汽水域でも生息可能と知りました）。

１０月１９日に開催された「疏水フォーラム」に活動事例紹介の機会をいただきましたので、「身近な疏水への思い　～東京湾から印旛沼～」のテーマの説明の中に、「気になること」として、ナガエツルノゲイトウについてお伝えしました。参加者から駆除の対策などについて質問があり、千葉県河川環境課が対応について返答されました。

また、ナガエツルノゲイトウの生態や印旛沼流域で長年調査されている、「佐倉印旛沼ネットワーカーの会」様にエコサロンで、お話しをしていただくことになりました。　（文責　桑波田）



弁天橋上流に広がるナガエツルノゲイトウ群落

第５４回 環境パートナーシップ エコサロン報告

今回のエコサロンでは、長年継続的に調査されている佐倉印旛沼ネットワーカーの会の根本明夫、堀川武の両氏に、「ナガエツルノゲイトウをご存知ですか？」というタイトルで、2012 年 11 月 15 日（木）17：00～19：00、ちば市民活力創造プラザ大会議室で話を伺いました。参加者は発表者、主催団体メンバー以外に、県から、河川環境課、生物多様性センター、印旛土木事務所、千葉市自然保護対策室、印旛沼土地改良区など関連部署の方々など１２名の参加をいただけました。

講演内容：特定外来生物ナガエツルノゲイトウの植生調査を平成１８年から平成２４年まで実施した。毎年の調査時期は７月から１０月まで、陸上から８回、水上から２回行っている。調査方法は、１㎡以上の群落を対象に、GPS、レーザー距離計を使って群落の位置や大きさを測定（一部目測、歩測）した。調査結果（総計群落数）から、平成１８年は、23,992 ㎡、平成２４年は 31,866 ㎡となっている。水田のナガエツルノゲイトウ調査を平成２０年から３年間、師戸川流域で実施したところ、毎年の調査各区分で群落数が増えていた。興味あることに、印旛沼の水を使っていない水田にも繁殖していることが分かった。

質疑応答：ナガエツルノゲイトウが河川、水路、水田等で繁茂するとどんな問題があるのかについての質問に対しては、①景観を損なう、②生物多様性の劣化、③農業被害（コンバイン等の農具の不具合、コメの収量減など）、④治水面での問題発生（洪水等の誘因、大和田機場での機能劣化、花見川へのナガツルの流入増加など）の意見がありましたが、④の治水面での問題提起はインパクトがあるということになりました。

今回のエコサロンでは、ナガエツルノゲイトウの現状と課題を明確にしてその駆除対策等について、積極的な意見交換の場になりました。今後の課題解決に向けて、継続的な意見交換の機会が必要と思われます。　（文責　加藤）

「疏水フォーラムinいんばぬま2012」開催報告とお礼

水土里ネット印旛沼　髙橋　修

疏水という言葉あなたにはどのように響きますか。きっと水清らかな流れ、悠々と山野を背景に大地を潤す水をイメージしたのではないでしょうか。たしかに、猪苗代湖を水源とする安積疏水、那須野が原を流れる那珂川から取水される那須疏水、琵琶湖から京の町へ流れる琵琶湖疏水など、そのイメージを壊すことのない水の流れだと思います。これら三大疏水に負けぬ歴史や苦労、水を必要とする農業や地域のために切り開いた水路は全国各地にあり、千葉県では印旛沼はじめ両総用水、大利根用水が農水大臣の疏水認定を受け、流れる水により地域を潤しております。印旛沼などは「清き水の流れ」からはほど遠いものですが、その機能は三大疏水に負けず、農地を潤す水では63㎢、千葉県の経済を潤す水では、工業用水、水道用水として使われ、何より大地を守る放水機能として600㎢を受け持ち、流域には100万人を超える人々が暮らしています。

一方、全国の疏水は人が築き上げ、その管理も人の手で行うことで良好に保全されてきましたが、地域の開発や混住化など疏水を取り巻く状況が一変し、また管理に当たる農家の高齢化、農業者の減少、さらには疏水自体の老朽化も手伝い厳しい状況に陥っています。そこで、疏水認定を機会に全国105の疏水に関わる水土里ネットなどで組織した疏水ネットワークが問題を共有し、その解決を探る取り組みから毎年「疏水フォーラム」を開催して、会員には勉強・情報交換の場、疏水を愛する一般参加者には広報宣伝の場として実施して参りました。昨年までは都道府県単位で行ってきたフォーラムも、より地域性を持たせるため、今回からは「〇〇疏水地区」と改め、その第１回フォーラムを「いんばぬま」で行ったものです。

前置きが長くなりましたが、当会との関わりをご報告いたします。平成23年度の東京フォーラムから「いんばぬま」がバトンを受けてもらえないかとの打診がありました。先にお話ししたとおり地域性に富んだ活動などをフォーラムで取り上げ、疏水ネットワークへ情報提供をしてもらいたいとの趣旨でした。すぐさま頭をよぎったことは、ここ「印旛沼」では、疏水を線として保全することはもとより、流域の視点から保全して行こうとの考えがあり、印旛沼流域水循環健全化会議が活動していること、また市民活動も活発で、水土里ネットが心配するよりも早く疏水を気にかけてくれる人々が存在することなど、他の疏水にない取り組みを情報発信できることとしてバトンを受け、走り出したものです。このとき既に、主たる事例報告を健全化会議虫明委員長、疎水路下流部花見川での活動報告を環パちばの桑波田代表にお願いする構図ができており、あとは出演交渉をすればよいとの思いでした。

平成24年10月19日にウィシュトンホテル・ユーカリ（佐倉市ユーカリが丘）において260名を超える参加者を集め「疏水フォーラムinいんばぬま2012～疏水開削の情熱を今ふたたび～」を盛況に開催することができました。

桑波田代表には「身近な疏水への思い～東京湾から印旛沼～」とのタイトルで、千葉県の貴重な水瓶である印旛沼を流域からきれいにしたいとの思いから、まずは知って貰う取り組みとしてエコウォーキングマップを作り、それを活用しながら子どもたちと歩き、疏水とふれあいながら生き物や人間にとって優しい空間であることを体験することで学ぶ活動を行っていること、また疏水を悩ます問題として外来植物の侵略をあげ、会場に警鐘を鳴らされました。締めくくりでは川が大事な資源であることを再認識した上で「環パちばの小さな思いが大きくなれば、もっと色々なことが解決していくのでは…」と結ばれました。

続くサロンでは、基調講演をされた太田信介さんから「女性の情報は男性のタテ型の情報に比べヨコ型のおもしろい、元気な情報が多い。地域から学ぶことも多い」と評価の声が聞かれ、桑波田代表からは「一緒にやっていける新たな仕組みが必要」と注文していただきました。

以上、フォーラムでは、全国に向けて「いんばぬまのパートナーシップ」を発信できたものと思っております。代表はじめ貴会のご協力ありがとうございました。また、一緒にやっていける新たな仕組みとして、例年春先に行っている水土里の路ウォーキングを本会とのバディーウォークとして「東京湾から印旛沼へ向かい」歩き始めることを第一歩としたら良いと思っております。

ナチュラルシード見学会―秋の陣

この事業は平成 23 年度に県が行った企業・NPO との協働事業で、有）ナチュラルシードネットワークと環境パートナーシップちば（環パ）が協働して、安全で環境にやさしい農業を学ぶ目的で、平成２４年２月に第一回の見学会を開催しました。

この時は収穫の端境期で畑や野菜の状態を充分に確認できなかったため、今回は収穫期に開催したものです。

今回は参加者が１２名（一般応募者４名＋ナチュラルシード２名＋環パ６名）と前回を下回ったものの、逆に充実した見学会を行うことができるというメリットがありました。

プログラムは初回と同じですが、何と言っても豊かに繁った野菜畑を目に出来たことが大きな収穫でした。４名の応募者は、それぞれはっきりした目的（無肥料栽培の実践、農地をコミュニティづくりに活用する計画を持つ）を持っておられたため、最後の意見交換会では、今回を次につなげる具体策として「いぬゐ郷」での学習や計画をする相談にまで発展させることができました。

（文責　牧内）

工場内の施設見学

豊かに繁る大根

畑の土の柔らかさを体感。深さ１m 程度まで容易に貫入する

旭硝子（株）千葉工場の環境の日

旭硝子㈱千葉工場環境安全部　沢田直行

１１月１２日の「環境の日」に、環境パートナーシップちば代表の桑波田和子氏に講演を引き受けていただき、ありがとうございました。

さて、弊社　旭硝子㈱千葉工場は、８年前に、安全衛生・環境・保安防災・品質の４つを、その重要性を明確にするため、「工場運営の４本柱」と位置付けました。

千葉工場操業５３年の中では、忘れてはならないことを経験してきており、それをいかに伝承し、再発させないかが、工場の大きな課題です。　その一手段として、８年前から、11 月 12 日を千葉工場の「環境の日」と設定し、毎年、講演会を開催し、環境に関しての意識の伝承、向上を図って来ています。

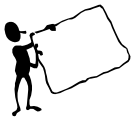
過去8回は、行政の方、環境法の専門家の方に、法改正の趣旨や環境不適合事例などの講演をお願いし、専門的な立場から環境保全の重要性を認識する講演をお願いしてまいりました。

本年度は、市民の立場、NPO の立場で精力的に活動されている方に、環境活動の紹介を通じて、環境への考え、また、企業及び従業員への期待をお聞きしたいと、環境パートナーシップちば 代表でエコメッセ2012 in ちばの実行委員長である、桑波田和子氏に講演を依頼しました。

桑波田氏は、「市民・企業・行政との協働で取り組む」～エコメッセ in ちばから～ を演題とし、エコメッセの活動を通じて、個々の取組みから協働の取組みへ進め、そこでの、市民・行政・企業の連携・協働の重要性を、限られた時間の中でお話しいただき、満員の会場からは大変好評でした。

講演を拝聴し、弊社が社会に貢献する企業であり続けるためには、「環境の日」の継続とともに、市民のみなさまの声をお聞きし、企業活動に反映して行くことの重要性を改めて認識いたしました。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　13　―
おききしました！　この人・この団体
佐倉印旛沼ネットワーカーの会（通称：印旛沼の会）



代表幹事　堀川 武

印旛沼の会は平成１１年５月２２日設立し、会員数１２５名の環境ボランティアグループです。活動は ①対外委員会 ②クリーン委員会 ③環境調査委員会 ④広報委員会 ⑤カレッジ委員会 ⑥チューリップ委員会の６つの委員会に分け、それぞれ独自性を持たせて積極的な活動を展開しています。

また６つの委員会を統括する意味で事務局を置き、各委員会のバランスと方向性を保っています。最近は環境分野に限らず、社会福祉活動にも積極的に参加し、赤い羽根共同募金や被災地域へのボランティア活動等も意欲的に参加表明しています。

（１）印旛沼周辺の清掃活動は当会の活動基盤であり、会設立以来毎年７～８回のクリーン活動を実施している。

①ゴミゼロ運動クリーン活動　②夏季クリーン活動　③秋季クリーン活動　④印旛沼浄化推進運動クリーン活動　⑤冬季クリーン活動　⑥佐倉朝日健康マラソン前クリーン活動　⑦印水協一斉清掃クリーン活動　⑧春季クリーン活動

近年市内民間企業や学生からの参加申込があり、合同クリーン活動として発展しつつあり、多くの市民を巻き込んだ印旛沼の環境浄化と住民意識の向上に寄与している。

（２）ナガエツルノゲイトウ・オニビシの植生調査は平成１７年から毎年行われ、調査対象水域も印旛沼流域全般に及んでいる。調査の結果は印旛沼環境調査として小冊子にまとめ、印旛沼環境基金の助成成果報告会にて発表し、また千葉県河川環境課その他関係機関に小冊子を配布して、環境行政に反映すべく貢献している。

（３）佐倉ふるさと広場のチューリップ植栽支援活動は、佐倉市役所公園緑地課の要請により当会設立以来毎年協力参加している。

１０ 月にチューリップ球根の袋詰め作業、１１月には市内２３校の小学５年生に対して球根植え付け支援活動を行う。所要日数は１０日間に及ぶ。

チューリップの球根数は１２種約 78,000 球で、翌年４月のチューリップフェスタでは満開の桜と風車と色とりどりのチューリップを沢山の来場者が鑑賞し、当会は印旛沼の情報発信基地としてテント内にてパネル展示や資料配布を実施している。

ゴミゼロ運動出発式

小学生の真剣な眼差し

猛暑に負けず環境調査

愉しく爽やかゴミ拾い

一人３６球上手に植えました

綺麗に咲いたチューリップ

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】をスタートしました。
ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
（広報部）

１０月運営委員会

日時　１０月１日（月）18:00～20:30
場所　船橋市民活動センター

【報告】
- エコメッセ 2012in ちば開催
- 環境学習指導者養成講座について
- 環パちばリーフレット完成
- だより８７号発送
- その他

【協議】
- だより８８号
- 環パ通信（メールマガジン）
- 印旛沼をきれいにする活動
- エコサロン（ナガエツルノゲイトウ）
- 印旛沼流域フェア
- その他
- 疎水フォーラムについて

１１月運営委員会

日時　１１月１５日（木）15:00～１６:４０
場所　ちば市民活力創造プラザ

【報告】
- 印旛沼をきれいにする活動
- 疎水フォーラムについて
- 印旛沼流域フェアについて
- ナチュラルシード見学会

【協議】
- だより８８号
- 環パ通信
- エコサロン（ナガエツルノゲイトウ）
- 技能向上講座
- エコメッセ協働創造市 交流会開催
- その他
- ２４年度の活動のふりかえりと
  ２５年度活動方針の検討（継続審議）

お知らせ

環境学習の指導について、再確認してみませんか？

平成 24 年度環境学習指導技能向上講座 受講生募集中

この講座は、すでに指導者として活動していらっしゃる方を対象にした上級講座です。

- 募集定員：20 名
  （応募者多数の場合は審査により決定）
- 対象：原則として２年以上の指導経験をお持ちの方
- 講座日程と内容：
  - 1/９（水）　環境学習に関する法律基礎知識 情報を読み解く力
  - 1/23（水）　博物館における環境学習
  - 1/30（水）　ファシリテーション実践
  - 2/６（水）　持続可能な社会の構築のために 環境学習が果たす役割
- 時間：10 時～16 時 30 分
- 会場：千葉市美浜文化ホール
  （1 月 23 日は浦安市郷土博物館）
- 受講料：無料
- 全日程を受講した方には、修了証を交付します。

【申し込み先】
HP： http://kanpachiba.com/
E-mail： moushikomi@kanpachiba.com
詳しいことはホームページ（上記 URL）
またはチラシをご覧ください。
【お問合せ：講座事務局】
Tel： 090-8116-4633
E-mail： moushikomi@kanpachiba.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：（一財）千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180　ＦＡＸ　043－246-6969
Ｅメール：info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて（郵便振替）入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
Ｅメール			
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人 1,000 円　団体 2,000 円　賛助会員 5,000 円		